

## 参考資料 1

「酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針」関係用語集

## 用語集

あ

EPA	Economic Partnership Agreement（経済連携協定）の略。2以上の国が関税の撤廃等による物品の貿易自由化に加え、サービス・投資の自由化、人の移動、協力の促進等幅広い分野で相互の経済連携を強化するための協定。
-----	---

イタリアン（ライグラス）	イネ科の1年生牧草。湿害に強いことなどから、関東以西の水田の裏作を中心に作付けられている。
--------------	---

稻発酵粗飼料	稻の実が完熟する前に、実と茎葉を一体的に収穫し、乳酸菌発酵させた飼料。ホールクロップ・サイレージ（WCS）とも呼ばれる。稻作農家が水田を水田として利用でき、かつ稻作用機械で管理できることから、近年、作付面積が急激に拡大し、注目されている。
--------	---

衛生管理ガイドライン	生産段階におけるHACCP（危害分析重要管理点）手法の考え方を取り入れたガイドライン。 HACCP
------------	---

液肥化	流動性の高いふん尿混合物（スラリー）や尿等の液状の有機質を、微生物による分解（「発酵」とも呼ばれる。）等により、液状の肥料として利用できるように変換すること。家畜のふん尿の場合は、液肥化の過程で臭気の軽減が期待できる効果もある。
-----	--

か

家族経営協定	家族で営農を行っている農業経営において、経営計画や、各世帯員の役割、就業条件等の世帯員相互間のルールを文書にして取り決めたもの。 家族経営協定により、女性や後継者等の農業に従事する世帯員の個人の地位や役割が明確化され、経営のパートナーとして位置づけられるよう関係者の認識醸成が図られることから、農業経営の近代化を促進していく上で重要な取組となっている。
--------	---

簡易対応	防水シート等を利用することにより、施工が簡単で工期も短く設置コストが小さい簡易な構造物を設置して、家畜排せつ物の管理の適正化へ対応すること。
------	--

環境負荷	人の活動により、環境に加えられる影響であって、環境の保全上の支障の原因となるおそれのあるものをいう。農業分野では、肥料・農薬の過剰な投入や家畜排せつ物の不適切な
------	--

管理が環境負荷の主な発生要因となっている。

---

牛群検定	農家が飼養している乳用牛の状況を客観的に数字で把握し、飼養管理改善や牛群改良に役立てるシステムのこと。具体的には、乳量、乳成分、体細胞数等のデータを個体毎に記録し、これらを集計・分析することにより、能力の高い雌牛の選抜を推進するもの。農家の牛群は乳用牛改良の基盤であり、収集されたデータは「検定成績表」として農家にフィードバックされ、能力に応じた雌牛の選抜的利用、飼料給与の改善、搾乳衛生管理、繁殖管理、遺伝的改良といった経営改善に役立っている。
クローン技術	遺伝的に同一な個体を複製生産する技術。家畜では皮膚や筋肉を構成する体細胞又は初期の受精卵から取り出した割球細胞を、核を除いた未受精卵子に移植した後、その受精卵を仮親の子宮に移植して生産する。
公共牧場	地方公共団体、農業協同組合、牧野組合等の団体が地域畜産の振興を図るため、農家の乳用牛または肉用牛を預かり、放牧利用を中心とした集団的な飼養管理を行う牧場。最近では、ふれあい機能をもつ牧場も増加。
耕作放棄地	農林水産省の統計調査における区分であり、調査日以前1年以上作付けせず、今後数年の間に再び耕作する意思のない土地をいう。なお、これに対して、調査日以前1年以上作付しなかったが、今後数年の間に再び耕作する意思のある土地は不作付け地といわれ経営耕地に含まれる。
効率的かつ安定的な農業経営	主たる従事者の年間労働時間が他産業従事者と同等であり、主たる従事者1人当たりの生涯所得がその地域における他産業従事者とそん色ない水準を確保し得る生産性の高い農業経営をいう。 食料・農業・農村基本法においては、国がこれらの経営を育成し、農業生産の相当部分を担う農業構造を確立するため、必要な施策を講じることとされている。
国内助成	国内農業に対する補助金や価格支持。WTO農業交渉（ウルグアイ・ラウンド）における合意では、国内支持政策を「緑」の政策（貿易や生産に対する影響がないか最小限と認められる政策） 「青」の政策（生産調整を伴う直接支払いのうち特定の要件を満たす政策） 「黄」の政策（上記以外の全ての国内支持政策） に分類し、このうち「黄」の政策については、その水準をAMS（助成合計量）で表した上、1995年から2000年までの6年間で20%削減することが合意された。

---

コントラクター	農家の労働力等を補うため、畜産農家等から、飼料作物の収穫作業等の農作業を請け負う組織。営農集団や農協のほか、民間企業等によるものがある。
混播（牧草）	牛の栄養バランス、草地の生産性を考慮して、イネ科牧草とマメ科牧草を混せて播種すること又はその牧草。
さ	
細断型ロールベーラー	青刈りトウモロコシを刈り取りロール状に成形する飼料収穫機械。高品質のサイレージができ、1人での作業も可能であることから、青刈りトウモロコシの生産を拡大する技術として注目されている。
搾乳ロボット	人に代わり自動的に搾乳する機械のこと。具体的には、穀類などの飼料により牛を枠に誘導し、牛が枠内に入ると乳頭をセンサーで検出し、搾乳のためのカップを装着して搾乳する。搾乳が終了するとカップを自動的に離脱させて、牛を退出させる。牛はいつでも好むときに自らロボットに入ることができ、ストレスを与えることなく乳量も増える。
搾乳ユニット自動搬送装置	繋ぎ飼い牛舎内で頭上に設置されたレールを用い、搾乳ユニットを乳牛の近くまで自動的に搬送する装置。これにより、搾乳ユニットを持ち運ぶ労働が軽減される。
自然循環機能	農作物や土壤微生物などの自然界における生物を介在する物質の循環が、農業の生産活動によって促進される機能をいう。食料・農業・農村基本法に基づき、国は、農業の持続的な発展のため、これを維持・増進することとされている。
雌雄産み分け技術	雌又は雄を選択的に生産する技術であり、次の2つの方法がある。 性判別受精卵技術 移植前の受精卵の一部を取り出し、雄のみに存在するDNAの有無により性別を確認してから移植する技術。 精子分別技術 フローサイトメーター（自動細胞識別装置）を用いてDNA量のわずかな違いを識別し、精子をX精子（雌精子）又はY精子（雄精子）に分別してから受精する技術
集送乳	酪農経営が生産した生乳を、タンクローリーにより集め、クラーステーションや乳業工場に送ること。
循環型社会	製品等が廃棄物等となることが抑制され、並びに製品等が循環資源になった場合においてはこれについて適正に循環的

---

な利用が行われることが促進され、及び循環的な利用が行われない循環資源については適正な処分が確保され、もって天然資源の消費を抑制し、環境への負荷ができる限り軽減される社会をいう。

政府は、循環型社会形成推進基本法に基づき、循環型社会の形成に関する施策を実施するために必要な措置を講じることとされており、農業分野においては、家畜排せつ物や食品残さの有効利用、たい肥の使用等による持続性の高い農業を推進している。

飼養衛生管理基準	家畜伝染病予防法に基づき定められた家畜の所有者が飼養に係る衛生管理の方法に関して遵守すべき基準。
生涯生産性	乳量だけではなく、供用年数等の経済性も考慮。
食品産業	食料の加工、流通、外食等のサービスを供給する産業。 その国内生産額は全産業 931 兆円のうち約 84 兆円（約 9 %）、就業者数は全産業 6,289 万人のうち 788 万人（約 13 %）を占め、国民経済的に見ても重要な位置づけを有する。
食料・農業・農村基本計画	食料・農業・農村基本法に基づいて、食料・農業・農村に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るために、政府が閣議決定して定める計画。 食料・農業・農村に関する施策についての基本的な方針、食料自給率の目標及び政府が総合的かつ計画的に講ずべき施策等を内容とする。情勢の変化を勘案し、施策の効果に関する評価を踏まえて、おおむね 5 年ごとに見直し、所要の変更を行うこととされている。
飼料要求率	体重増加量に対する飼料摂取量の比率。
スーダン	イネ科多年草牧草。暑熱倒伏に強く、台風襲来の頻繁な地域でも栽培でき、再生力が強いことから高収穫が期待できる。
スタンチョン (連動スタンチョン)	牛の首の部分をはさんでつないでおく器具のこと。主に繋ぎ飼い牛舎で使用されるが、放し飼い方式牛舎の給餌柵などにも使用されている。繋ぎ飼い牛舎で使用された場合、個体別給餌、発情や異常の発見しやすさ、他の個体同士との競合や闘争の防止など、個体管理には多くの利点がある一方、多頭数飼養には向かない。 連動スタンチョンは、連続したスタンチョンの開閉を一元的に同時に出来るシステム。
粗飼料利用性	摂取した粗飼料を畜産物生産に利用できる能力。

た

---

たい肥化	有機物を含む材料を、酸素が十分にある条件下で微生物の作用により分解（「発酵」とも呼ばれる。）し、土壤改良資材や肥料に変換すること。家畜のふんをたい肥化する場合は、分解を促す上で通気性の確保が必要となるため、もみがらやおがくずなどの副資材を混合して、適宜かくはんや切り返しを行うことが重要。
WTO農業交渉	World Trade Organization（世界貿易機関）における農業に関する貿易ルールの決定に向けた多角的貿易交渉。WTO農業協定20条に基づき、2000年3月より交渉が開始された。日本は、2000年12月に「WTO農業交渉日本提案」を、2001年6月に詳細提案を、そして2002年11月に「モダリティ案」をそれぞれ提出した。モダリティ確立に向けた努力が続けられたが、結局2003年9月のカンクン閣僚会議で決裂した。2004年2月に、ニュージーランドのグローサー大使を農業交渉グループ議長として農業交渉が再開され、同年8月1日に農業モダリティの枠組みに合意した。枠組み合意に至る過程で、わが国はスイス、ノルウェー、韓国などとともにG10共同提案を提出した。
地産地消	地域で生産された産物を、その地域で消費するという考え方に基づき行われている取組。 具体例として、直売所を利用した地域産物の販売、地域産物への理解を深めるための生産者と消費者の交流活動などがある。
チモシー	イネ科牧草の多年性牧草。耐寒性が強く栄養価の高い品種。北海道における栽培面積が広く、採草、放牧兼用種として利用される。
DNA解析技術	遺伝的能力や遺伝病の発生を事前に把握するため、優良な形質や遺伝病に関連するDNA（遺伝子）を特定する技術。現在、優良形質については、黒毛和種の脂肪交雑、枝肉重量に関連するDNAが特定されつつある。また、遺伝病については、原因となるDNA（遺伝子）の特定により、牛で7種、豚で1種の遺伝病診断法が確立されている。
TMR	Total Mixed Ration（完全混合飼料）の略。粗飼料や濃厚飼料を混合し、牛が必要としている全ての栄養素をバランス良く含んだ飼料。栄養的に均一で選び食いができないという特長がある。これを専門的に作り、農家に供給する施設をTMRセンターという。
TDN	Total Digestible Nutrients(可消化養分総量)の略。飼料の含有する栄養価(エネルギー価)を示す単位で、家畜が消化し、

---

エネルギーとして利用できる養分の総量を示すもの。

(例) 1 kg 中の T D N 量は、

稻発酵粗飼料 210 g

稻わら 360 g

とうもろこし 800 g

---

特定家畜伝染病 防疫指針	総合的に発生の予防及びまん延の防止措置を講ずる必要がある家畜伝染病に関して、国、地方公共団体、関係機関が連携して取り組むための指針。平成16年、口蹄疫、BSE、高病原性鳥インフルエンザについて作成。
-----------------	---

---

土地利用型農業	農地に米、麦、大豆などを作付け、栽培管理、収穫などを行う農業。
---------	---------------------------------

---

な

認定農業者（制度）	農業経営基盤強化促進法に基づく制度。 経営を改善するための計画（農業経営改善計画）を作成し、市町村基本構想に照らして適切であり、その計画の達成される見込みが確実で、農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために適切であるとの基準に適合する農業者として、市町村から認定を受けた者。 認定農業者には、スーパー L・S 資金等の低利融資制度、農地流動化対策、担い手を支援するための基盤整備事業等の各種施策が重点的に実施されている。
-----------	--

---

農地の集積	特定の農業経営が、「所有」、「借入」、「農作業受託」により農地利用を集約すること。担い手への農地の利用集積を図ることにより、経営規模が拡大され、構造改革の一層の加速化や、農業経営の効率化が図られる。
-------	---

---

は

パイプライン	搾乳機（ミルカー）により搾った生乳を牛舎や搾乳室に配管されたパイプを通じて冷却装置（バルククーラー）に送り、冷却・貯蔵する方式。
--------	--

---

H A C C P	Hazard Analysis and Critical Control Point（危害分析重要管理点）の略。これまでのような最終製品の抜き取り検査を中心とする品質管理方法とは異なり、原材料から加工・包装・出荷に至るすべての段階で発生する可能性のある食品衛生上の問題点を検討し、その発生を防止又は減少させる管理方式。
-----------	---

---

繁殖性	効率よく妊娠し分娩する能力。
-----	----------------

---

B S E	Bovine Spongeform Encephalopathy（牛海綿状脳症）の略。
-------	---

異常プリオンたんぱく質（細胞たんぱく質の一種が異常化したもの）に汚染された飼料（BSE 感染牛の脳等を含む肉骨粉等）の摂取により経口感染すると考えられている牛の疾病。2年以上の長い潜伏期間の後、脳組織がスponジ状になり、行動異常等の神経症状を呈し、発病後2週間から6か月で死に至る。1986年に英国で初めて報告されたが、これは、70年代に英国での肉骨粉の製造工程が変化したことにより、異常プリオンたんぱく質が不活化されずに残存した肉骨粉が流通・給与されたことが背景にあると考えられている。

ヘルパー	農家が休日を確保する場合や農家が突発事故が発生した場合等において農家に代わり飼養管理等を行う者。
ほ乳口ボット	子牛へ自動的に代用乳を与える装置。省力化だけでなく、子牛個体毎には乳量やほ乳回数を自由にコントロールできるため、子牛の発育管理に役立つとともに、早くから集団管理にならされることができる。
フリーストール	放し飼い式牛舎で、列状に配置した牛床（ストール）に牛が自由に横臥できる方式をいう。牛が自由に行動できるため、牛にストレスを与えず、また省力化の効果が大きい。
フリーバーン	放し飼い式牛舎で、全面に敷料をおき、どこでも牛が横臥できる方式をいう。牛にストレスを与えないが、適切な敷料管理とふん尿処理が要求される。
分離給与	粗飼料と濃厚飼料等を別々に給与する方式のこと。一方、粗飼料と濃厚飼料等を混合して給与する方式にTMR等の方式がある。TMR 分離給与は古くから行われており、設備投資を必要とせず、緻密な給餌方法をとれば、個体別管理ができるなどの利点がある一方、選び食いを助長し、給餌作業時間が長くとられるなどの短所がある。
ま	
ミルキングパーラー	放し飼い方式で飼養される乳牛を搾乳するための部屋のこと。牛をパーラーに移動させて搾乳を行うため、省力化の効果が大きい。
ら	
リスクコミュニケーション	食品の安全性確保に関する施策等に国民の意見を反映するため、関係者相互間で情報及び意見の交換を行うこと。